

1 教育目標

自ら学び 自ら考え 自ら行う～さすが さいこう さくらまち～
 <めざす子ども像> ～自立し、共に、よりよく生きようとする桜町っ子～
 ○ よく考え、工夫する子ども
 ○ 助け合い、励まし合う子ども
 ○ 明るく、たくましい子ども

2 学校経営方針

<学校像>
 ○ 教職員が有機的に結びついた学校 ○ 挙校支援体制のある学校
 ○ 効果的で美しい環境が整備された学校 ○ 家庭・地域と連携する学校
 <目指す教職員像>
 ○ プロとしての資質を磨き続ける教職員 ○ 新学習指導要領に基づき実践する教職員
 ○ 子どもとの信頼関係を構築する教職員 ○ 基本的学習・生活習慣、豊かな心を身に付けさせる教職員

3 重点目標

- 「さくらまち習慣」化の徹底
- 縦割り活動の充実
- よい行い、よい学び、よい言葉の励行
 ・ボランティア活動の充実 ・授業改善に向けた研鑽 ・挙校支援体制の向上
- 働き方改革の推進

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート集計			分析及び改善策
			肯定的割合(%)			
			生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	94.7	92.3	95.7	各項目において満足できる評価となった。「学校の雰囲気」における児童の評価を向上させるためには、現在進めている挨拶やボランティア活動への自発的な取組を充実させていくことが大切であると考えます。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	87.6	94.4	100.0	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			100.0	
	業務改善	公務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			100.0	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	92.6	92.2	95.8	○昨年度までの本校児童の課題は、思いやりの心情及び規範意識の低さであったが、全校的に見ると満足できる数値が出た。今年度、校内研究の道徳科において重点目標に掲げた「思いやり・親切」「規則の尊重」に関する指導が少しずつ奏功してきた結果が出た。一方、「あ・は・は運動」の認知度は低いものの本校で実施している習慣化の取組で必要な資質を身に付けさせることができている。課題は、平和教育。一過性の取組に終わらせないこと、対話型の授業を可能な限り取り入れていくことで改善を図りたい。
		挨拶をよくしている	91.0	78.0	75.0	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	69.1	76.3	69.6	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	93.1	87.7	100.0	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	87.2	84.8	100.0	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	93.0	96.0	95.0	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	84.0	93.0	100.0	
特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	96.3	82.4	100.0		
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風の実態に即した教育を行っている	98.6	96.9	100.0	「特色ある学校づくり」の高い評価は、本校の伝統行事である桜っ子くんちによるところが大きい。今後も地域の願いを反映させつつ、持続可能な取組となるよう洗練させていくことが必要である。授業に関しては、低い評価ではないものの保護者に認識してもらった機会が少なかったため、次年度からは授業参観の回数を増やしたり、校内研究の実践を紹介したりするなどの工夫を行う予定である。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	91.4	92.5	100.0	
		家庭学習の習慣が身に付いている	94.4	87.7	100.0	
	進路指導	将来の進路や職業について適切に指導している	90.9	86.4	95.2	

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	94.2	92.5	100.0	体力向上に関しては、職員の評価は一昨年度比12ポイント上がっている。昨年度から実施している毎朝の「ランラントラック走り」の取組がその要因と考える。食育指導も同様に16ポイント向上している。11月にインフルエンザが流行し、学年閉鎖の措置をとった。情報収集と予防の啓発・徹底を図る。
	体力向上	基本的な生活習慣が身に付いている	88.1	84.6	100.0	
		体力向上に努めている	84.9	87.9	87.0	
	食育	食に関する教育活動を行っている	84.6	94.1	95.2	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	95.8	92.7	100.0	安全管理に関しては、高い評価となっている一方で、保護者から校門の常時施錠を求める声が増えている。昨今の世の中の状況から分らなくもないが、現状を考えると難しい。校門に警備員を配置する。もしくは、PTAで分担して立哨する等の対策をとらなければ、安全管理の徹底は図れないと考える。また、情報提供に関する評価が低いのは今後の課題である。通信やHPだけでなく、地域や保護者の方に気軽に来校してもらう機会を意図的に設定する必要がある。具体的には、本校の研究を随時公開したり、子どもたちの普段の頑張りを見てもらったりする機会を設定することが考えられる。
	情報提供	学校の状況は、通信やHP等で知ることができる	69.6	90.1	91.7	
	PTA・地区との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	84.1	93.8	95.7	
	職員の資質向上	研修が充実し、資質が向上している			95.7	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	97.7	95.4	85.7	職員の評価が低い要因は、大きく次の2点が考えられる。一つは使った備品や教材、鍵等の管理の不徹底。この点については、整理しやすいよう、「見える化」を行うことと職員一人一人の意識啓発を図ることで改善中。もう一点は、経年劣化による設備等の不具合が目立ってきたことが挙げられる。優先順位を付けて修繕し、安全管理の徹底を図りたい。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			100.0	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

保護者の回答数及び自由記述欄への記入の多さから本校の教育に対する関心の高さを改めて感じた。「学校の雰囲気」「特色ある学校づくり」「PTA・地域との連携」等の項目が高い評価となっている。本校がこれまで地域とともに培ってきた学校風土によるところが大きいと考える。特に、運動会や桜つきくち等の行事は、地域・保護者との深い連携による協働的な取組であり、今後も充実したものとなるよう努めたい。「人権教育」「食育」「環境整備」の項目も評価された。いずれも安心・安全に関わる重要な項目である。児童が学習や様々な活動に没頭できる環境づくり、及び、心の教育の推進に尽力していることが評価されたと考える。一方、保護者による要望が多数寄せられた。家庭が行うべきものを学校に要求する意見も目立つ。記名制にして、「言いたいこと」ではなく、「言うべきこと」という視点で、生産的な意見をいただくよう改善を図りたい。学校と家庭がそれぞれ行うべきことを整理し確認すること、各種研修会やPTA等による家庭教育に関する研修会を実施すること等、対策を講じる必要がある。また、本校が力を入れている校内研究を中心とした授業改善、「さくらまちだい習慣」の認知度が低いことが伺える。児童の姿に成果が表れているので、保護者にもっと学校に来校してもらう機会をつくり、学校の取組や児童の頑張りを周知してもらおう工夫を行っていきたい。

6 学校関係者評価

1月30日にPTA会長、連合自治会長他関係者7名の出席を得て評価委員会を実施。出席された皆様からは、本校の取組に対し、深い理解と応援の意思をいただき、心強く感じるとともに本会が今後の諸活動を進める原動力となると考えた。以下、会に出た主な意見。

- 「さくらまちだい」習慣の取組は意義がある。ただ、残念ながら家庭や地域に周知が十分ではない。
- 単年での評価だけでは、分かりにくい。経年での評価ができれば更に、よさや課題が明確になる。
- 保護者の意見を集約する場合、同様の意見がどれだけあったかまで示すと分かりやすい。
- 評価委員会の前に資料を提供してほしい。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- 学校を支える様々な立場の声を直接聞く機会の大切さを実感した。次年度は、学校経営関係者会議を増設する予定。
- 学校の取組や子どもたちの頑張りを家庭や地域に理解してもらおう工夫や努力が必要である。具体的には次のような取組が考えられる。
 - ・ 授業参観日を増やす。・ 通信等で周知、啓発を図る。・ 懇談会で保護者と課題について協議し、共有する。
- 学校・家庭・地域、それぞれの役割を今一度確認し、相互が連携しながら、できることを取り組んでいく。